

## 2020年度事業 中間評価報告書（実行団体）

提出日: 2022年〇月〇日  
事業名: 平成30年7月豪雨災害からの復興に向けた被災者再建と地域食堂が連携した居場所づくり支援プロジェクト  
資金分配団体: 一般社団法人RCF  
実行団体: 一般社団法人ドットリバー

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	評価全体の進行管理/ワークショップファシリテーター/評価報告作成	織田 十裕	一般社団法人ドットリバー 代表社員
内部	ワークショップ参加者	富山 孝治	一般社団法人ドットリバー 代表理事
内部	ワークショップ参加者	西 希	一般社団法人ドットリバー
外部	中間評価に関する専門的知見からのアドバイス提供	竹邊 祐一郎	人吉市役所商工振興課係長
外部	中間評価に関する専門的知見からのアドバイス提供	松島 泰代	人吉市役所観光振興課係長

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

①短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改
・ワーケーションプラン ・人吉市内の宿泊事業者	・モデルプラン数 ・連携する宿泊事業者数	・モデルプラン10件 ・連携する宿泊事業者10件	2023年3月	〈～2022年3月〉 ・人吉球磨地域において20社以上の宿泊事業者と連携 ・それぞれの事業者と共にモデルプランを作成している段階
・観光コンテンツ ・ワーケーション訪問客	・訪問客数（モデルツアー）	50人	2023年3月	〈～2022年3月〉 ・14社35名以上をワーケーション受け入れ
・地域内事業者	・事業者数	49事業者	2022年4月	飲食店事業者や宿泊事業者と連携し、新しい商品開発やプラン作成などワーケーション受け入れをしており、理解も深まっている
・地域内からの相談件数	・相談件数	20件	2022年4月	飲食店事業者や宿泊事業者からの直接相談も数件受けており、人吉市や観光協会とも連携してヒアリングを実施するなど再建に向けた後押しを実施している

②アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」 (※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
宿泊事業者と連携したワーケーションプランがいくつかできており、人吉市としてのワーケーションのモデル事例になっていること	〈～2022年3月〉 ・人吉球磨地域において20社以上の宿泊事業者と連携 ・それぞれの事業者と共にモデルプランを作成している段階	連携する宿泊事業者数は、目標値の2倍を記録した。彼らを巻き込んでいく中で、ワーケーションが地域にもたらす恩恵を認識してもらい、地域全体で意識醸成が成されたことが要因であると考えられる。今後はHPや冊子などの販促物を用いてワーケーションを広範囲に発信していき、更に多くの事業者を巻き込み、魅力的なプランを作り上げていく。

<p>ワーケーションを軸とした新しい観光コンテンツができ、訪問客が訪れている状態</p>	<p>〈～2022年3月〉 ・14社35名以上をワーケーションに受け入れ</p>	<p>訪問客は訪れているが、観光コンテンツ化には中長期的な時間がかかる模様。ワーケーション利用客の中には専門性のある知見やスキルを有した人が多い。彼らと地域事業者との間にコネクションを作ることで、人吉の新たな魅力づくり・発信に繋がると考えられる。</p>
<p>地域内の事業者が、ワーケーションプランを通じて協力ができている状態</p>	<p>飲食店事業者や宿泊事業者と連携し、新しい商品開発やプラン作成などワーケーション受け入れをしており、理解も深まっている。</p>	<p>ワーケーション事業を中心として、地域のキーパーソンを巻き込むかたちでネットワークが構築されてきている。ネットワーク内で地域の課題を聞き取れており、課題に対応した施策やイベントの企画を検討していきたい。</p>
<p>ワーケーションの実施を通じて事業者から相談等を持ちかけられる関係性ができ、相談を受けた際に行政等に連携し、再建に向けた後押しができる状態</p>	<p>飲食店事業者や宿泊事業者からの直接相談も受けしており、人吉市や観光協会とも連携してヒアリングを実施するなど再建に向けた後押しを実施している。</p>	

<p><b>事業のアウトカムの進捗評価</b></p>	<p><b>評価結果の考察</b></p>
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p>FALSE 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p>FALSE 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p>TRUE 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p>FALSE 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p>FALSE 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>今年度の活動では、短期アウトカムのうち数件の目標値を達成できた。これらの項目は、未達の短期アウトカム及び中長期アウトカムの導入部にあたる。基礎の部分が固まっているため、あとは目標値にむけて実績を積み上げていく状態にある。また、情報発信にも積極的に注力していくことから、今以上に関係人口の増加が予想される。これらの観点から、短期アウトカムの目標値はおおむね達成されると思われる。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

※評価項目・評価小項目は変更可

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	・事前評価以降、事業を取り巻く環境（政策、経済、社会など）の変化はないか	特になし	宿泊・飲食事業者は新型コロナウイルスの影響に左右されやすい。しかし未だに収束する兆しが見えないことから、観光コンテンツとしてのワーケーションを見直す必要がある。
	・意図した対象者に事業は届いているか	地域内宿泊・飲食事業者、地域外からの利用者には届いている	今後は今まで集めてきた素材を用いて、HPや冊子などのPRを積極的に行っていくため、ワーケーションを広範囲に発信することが可能になる。更に意図した対象者に事業が届くことが予想される。
	・当初設定された目標に対し、課題として想定されていた事項の解消に向けた活動の進捗は順調か	地域内事業者にワーケーションの意義や地域への恩恵を理解してもらえつつあり、プランを共創している状態	地域の宿泊事業者数を巻き込んでいく中で、ワーケーションが地域にもたらず恩恵を認識してもらい、地域全体で意識醸成が成されたことが要因であると考えられる。
知見の共有、活動の改善	・アウトプット発生に影響を与えた阻害・貢献要因は何か	宿泊・飲食事業者は新型コロナウイルスの影響に左右されやすく、観光客が減少しており、ワーケーションを観光コンテンツ化することの阻害要因となっている	「事業の改善状況の評価結果の考察」を参照
	・事業の進捗において必要な実施事業の見直しが行われているか	「事業の改善状況の評価結果」を参照	
組織基盤強化	・団体運営の基本規定や運用体制などを構築できているか	運営に必要なスタッフは揃っており、基本的なルールづくりも終わっている状態	ルール作りは終わっているが、可視化はできていないため成文化する必要がある。地域内外問わず、スキルや知見を持った人材を巻き込んだ施策に取り組むことが課題。

## ②短期アウトカムの状況の変化・改善に貢献した要因や事例

地域内事業者にとって事業開始当初は言葉でしか聞いたことのなかった「ワーケーション」について、受け入れをする中で理解いただき、受け入れることで地域内にどんなことをもたらすのかも含めて全体的な意識醸成をすることができた。この意識が他事業との連携が円滑にいくようになった要因の一つと考えられる。

## ③事前評価時には想定していなかった評価

ワーケーション事業が中心となり、地域のキーパーソンを巻き込むかたちでネットワークが構築されてきている。また、ネットワーク内で地域の課題が拾える状態にあり、課題に対応した施策やイベントが行えている。

## ④事業計画の改善の必要性の確認

- TRUE 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- TRUE 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- TRUE 事業計画に記載している活動は、アウトプット→アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- TRUE 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるように計画されている
- TRUE 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている

事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために  FALSE 事業計画は適切に改善されたといえる TRUE 事業計画を適切に改善する見込みがある FALSE 事業計画の改善について、課題が残っている  と自己評価する	事業計画ではワーケーションを軸とした観光コンテンツの成立を短期アウトカムに設定していた。しかし新型コロナの影響もあり、コンテンツ化には中長期的な時間を必要とすることが見込まれ、短期的なアウトカムとするのは困難であると分かった。一方で、ワーケーションを通じて様々な専門スキルを持った人々が人吉に来訪している。彼らを地域内の宿泊・飲食業者と結びつけることで、新たなコネクションを創出し、人吉の魅力を地域外に広める一助になると考える。そのためにも、地域内外に積極的に情報を発信し、ワーケーションの価値を浸透させることが短期的に必要なようになってくる。

## ⑤中間評価結果を踏まえて今後注力したい、または早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

添付資料 ※別途資料を作成している場合は提出  
活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3~4枚程度）